

「におい・かおり環境学会誌」執筆要綱

(平成 27 年 1 月 23 日改定)

1. 総 則

本誌は、においとかおりに関連した諸分野について、価値のある論述、調査、研究技術開発の成果およびこれらに関する資料、情報などを掲載するとともに、におい・かおり環境協会と会員の活動などに関する情報などを提供する。

2. 誌 名

- (1) 日本名 におい・かおり環境学会誌
- (2) 英 名 Journal of Japan Association on Odor Environment

3. 掲載内容など

掲載内容とその種類・区分は表-1に示すとおりとする。

研究論文、技術論文、研究速報、技術速報については査読を行う。他の投稿原稿については編集委員会において内容検討を行う事がある。

表-1 掲載文の種類

| 種 類 | 区 分 | 標 準 ページ数 |
|-----------------|--------|-------------|
| 1 巻頭言 | 依頼 | 1 |
| 2 総説、論説 | 依頼、投稿 | 6 |
| 3 報文（研究論文、技術論文） | 投稿（査読） | 6 |
| 速報（研究速報、技術速報） | 投稿（査読） | 4 |
| 4 解説、講座 | 依頼、投稿 | 6 |
| 5 調査報告 | 依頼、投稿 | 6 |
| 6 訳文 | 依頼、投稿 | 6 |
| 7 技術資料 | 依頼、投稿 | 6 |
| 8 製品、装置、特許紹介 | 依頼、投稿 | 6 |
| 9 会員の声 | 投稿 | 1以下 |
| 10 文献紹介 | 編集委員会 | |
| 11 図書、出版物紹介 | | |
| 12 官公庁ニュース | | |
| 13 協会ニュース、会報 | | |
| 14 業界などの情報 | | |
| 15 その他 | | |

4. 研究論文、技術論文、研究速報、技術速報の投稿規程

(1) 総 則

においとかおりに関連する基礎研究、応用研究ならびに事例紹介などで独創的、萌芽的または価値のある知見を含み、会員である読者が容易に内容の理解、あるいは知見の利用ができるように、できるだけ平易に記述したものとし、いずれも本誌に投稿される以前に他誌に公表されていないものとする。ただし、大学紀要、研究所報などに発表されたもの、国、地方自治体、業界、団体からの委託研究の成果報告書などに記載されたものについては、投稿を認める。その場合は、発行物に掲載された内容のコピーを添付する。

なお、学会、シンポジウム、研究発表会、国際会議などで発表されたものについては、投稿を認める。

(2) 言 語

原則として日本文または英文とする。

(3) 投稿原稿の内容

査読対象となる投稿原稿は、原則として以下に規定される内容を含むものとする。

1) 研究論文

独創性のある理論的または実証的な研究で、信頼性が高く、学術的に価値があり完成度の高いもの。

2) 技術論文

新しい知見を与える有用性、実用性に富んだ実測、実験、調査などの研究で、信頼性が高く、学術的、技術的に価値があり完成度の高いもの。

3) 研究速報

独創性のある萌芽的研究で価値ある結論を含み、信頼性が高く、発展性の期待できるもの。

4) 技術速報

主に技術的な知見に富んだ実測、実験、調査などのデータを含み、信頼性が高く、将来技術的に参考となる可能性があるもの。

(4) 論文（報文、速報の）構成と内容

表-2 (1) および表-2 (2) に示すとおりとする。

(5) 投 稿

1) 会員であることを原則とするが、会員1名を含めば会員外でも投稿することができる。

2) 投稿は本執筆要綱と手引きに従って作成しなければならない。

3) 投稿原稿は、紙媒体ないしは電子媒体により提出する。

表-2 (1) 報文の構成と内容

| 項 目 | 項目の表示例 | 主 な 内 容 |
|-----|-----------|--|
| 1 | 表 題 | 表題, 著者名 (姓名), 所属機関名, 所在地 (郵便番号も含む), 連絡先 (電話番号, FAX 番号, e-mail ※選択可) とこれらに対応する英語を併記 |
| 2 | 要 旨 | 本文の内容の要点について全文を通読した場合と同様に伝えることができるもので, 具体的に記述 (400 字以内) |
| 3 | キ ー ワ ー ド | 日本語およびそれに対応する英語とし, 報文の内容が分かるような熟語を本文から選ぶ (5 ワード程度) |
| 4 | 緒 言 | 関連文献を挙げて本論文の位置付け, 意義, 目的などを記述 |
| 5 | 実験材料と方法 | 実験材料と実験方法, 解析方法, 調査方法 |
| 6 | 結果および考察 | 研究, 実験, 解析, 調査の結果, 成果およびそれらに対する考察など |
| 7 | 結 語 | 結論, 結言 |
| 8 | 参 考 文 献 | 参考文献 |
| 9 | 補 遺 | 補足, 注釈, 参考資料など |
| 10 | 英 文 要 旨 | 和文要旨の英訳 (200 語程度) したもので, 十分な英文推敲が行われていること (表題, 著者名, 所属, 所在地も記載) |

- (注) 1. 研究方法は他の研究者などが追試, 検証できるように, 要領よく丁寧に記述する. 記述が長くなるときには補遺で説明する.
2. 内容は, 原則として専門分野の異なる者にも概略が十分に理解できるものとする.

表-2 (2) 速報の構成と内容

| 項 目 | 主 な 内 容 |
|-----------|--|
| 表 題 | 表題, 著者名 (姓名), 所属機関名, 所在地 (郵便番号も含む), 連絡先 (電話番号, FAX 番号, e-mail ※選択可) とこれらに対応する英語を併記 |
| 要 旨 | 本文の内容の要点について全文を通読した場合と同様に伝えることができるもので, 具体的に記述 (200 字以内) |
| キ ー ワ ー ド | 日本語およびそれに対応する英語とし, 報文の内容が分かるような熟語を本文から選ぶ (5 ワード程度) |
| 緒 言 | 関連文献を挙げて本速報の位置付け, 意義, 目的などを記述 |
| 実験材料と方法 | 研究, 実験などに関する装置, 原材料, 方法, 解析, 調査などに関する手法, 手段に関する記述 |
| 結果および考察 | 研究などの結果, 成果ならびに考察, 評価, 論述, 知見の整理, 既知見との関係を記述 |
| 参 考 文 献 | <執筆の手引き 4., 5. 参照> |
| 英 文 要 旨 | 和文要旨を英訳 (200 語程度) したもので十分な英文推敲が行われていること (表題, 著者名, 所属, 所在地も記載) |

- (注) 1. 本文は項目分けを行わず, 太文字で項目見出しを作成し, 内容を段落として区別する. <執筆の手引き 1. - 4) 参照>
2. 研究方法は他の研究者などが追試, 検証できるように, 要領よく丁寧に記述する.
3. 内容は, 原則として専門分野の異なる者にも概略が十分に理解できるものとする.

紙媒体の場合は、正1部、副3部を提出する。

電子媒体の場合は、PDF形式で提出する。

- 4) 原稿の長さは原則として、1編当たり刷り上り報文6ページ速報4ページ以内(図、表を含む)とする。
- 5) 原稿は本会編集委員会宛に送付する。編集委員会到着日を受付日とする。
- 6) 投稿カードを原稿の頭に付ける。(本巻末参照)
- 7) 英文による投稿について
 - a) 投稿前にネイティブによる英文校閲を受ける。
 - b) 原則として表題、要旨、キーワード、本文について英文に対応する日本語を添付する。
- (6) 審査
 - 1) 投稿原稿は複数の審査員によって審査され、その採否は編集委員会が決定する。
 - 2) 論文の査読の判定基準は以下のとおりである。
 - a) 目的に対しての相当する結果が得られているか。提起した問題、導入した概念や方法、発見した事実や法則の新規・独創性および得られた結果の学術的および技術的な新規性・有用性があるか。
 - b) 論旨、論拠の妥当性・明快性、方法(実験、調査など)とその結果の信頼性・再現性および研究展望、研究の位置付けの適切さ。
 - c) 表現、用語や関連文献引用の適切さおよび商業主義からの中立性があるか。
 - d) 人を対象とした実験に基づく論文(速報含む)は、いわゆる「ヘルシンキ宣言」(1964年承認2008年改訂)の精神に則って行われた実験であり、研究者の属する機関の倫理委員会などの承認を受けたものであることが論文に記載されていること。
また、動物を対象とした実験に基づく論文(速報含む)は、「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準」(平成18年環境省告示第88号)を遵守して行われた実験であり、研究者の属する機関の該当する委員会などの承認を得ていることが論文に記載されていること。
 - 3) 編集委員会は投稿原稿について、加筆、修正、補足、削除、訂正を求めることができる。これらの変更に必要な期間は、速報においては30日以内、論文においては60日以内とし、これより遅れた場合は新規投稿として扱う。
 - 4) 査読の結果「採用」の論文には受理日を明記する。受理日は、掲載可に決定した期日とする。
 - 5) 査読の結果「再査読」の場合は、修正された原稿について改めて査読を行う。
 - 6) 査読の結果が「不採用」の場合で、その不採用の理由に対して、投稿者が明らかに不当と考えた場合には、不当とする理由を明記して、編集委員長宛に

異議申し立てをすることができる。

(7) 校正

著者校正は1回行う。原稿になかった字句などの本文への挿入は、編集委員会が認めない限り許されない。

(8) 費用など

- 1) 投稿料は1編当たり4000円とする。ただし刷り上り論文が6ページを超える場合には超過分を1ページにつき500円を著者負担とする。"
- 2) 図、写真などに関しては、「執筆の手引き」3.による。
- 3) 印刷上の誤りについて発行日から6か月以内に著者から申し出があった場合には、これを掲載する。
- 4) 印刷上の誤り以外の訂正、追加、補足、削除、修正などについて著者の申し出があり、編集委員会がそれを適当と認めた場合に限り掲載する。
- 5) 別刷りは有料(実費)とする。
-希望する時は巻末の投稿カード内の別刷希望部数欄に記入願います。-

5. 報文および速報以外の掲載文

表-1の報文および速報以外の掲載文についてもできるだけ本執筆要綱に準じる。

(6) 審査d)の過渡期的措置として

- ・実験は、一般的な基準(嗅覚測定法安全管理マニュアル*など国が示す指針)を参考として行われたものであり、その旨の記載が実験方法にあること。
- ・実験にあたっては、被験者に対し、実験内容等についての十分な説明を行い、実験中も途中辞退が可能であることを伝え、同意を得たうえで行われたものであること。あわせて全て実験者(執筆者)の責任のもとに行われたものであり、その旨の記載が実験方法にあること。

*環境省環境管理局大気生活環境室編:(2005)、「嗅覚測定法マニュアル」, p189-p261, (社)におい・かおり環境協会。

6. 原稿提出先・お問い合わせ先

〒169-0075
東京都新宿区高田馬場2-14-2 新陽ビル1106
(公社)におい・かおり環境協会
におい・かおり環境学会誌 編集委員会 宛
TEL 03-6233-9011
FAX 03-6862-8854
E-mail kikanshi@orea.or.jp

執筆の手引き

1. 原稿本文

- 1) 原稿は原則として、常用漢字、現代仮名遣いを用いて記述する。
- 2) 原稿は、平易な表現で丁寧に内容を記述し、記述の内容の解釈が読者によって異なることのないように配慮する。また、内容の理解に特殊な知識などを要する場合には補遺での解説、補足を付ける。句読点は、日本語では全角カンマ「,」と全角ピリオド「.」を用い、英語では半角カンマ・スペース“, ”と半角ピリオド“. ”を用いる。機種依存文字 (①②③ I II III ④⑤⑥など)、半角カタカナは用いない。
- 3) 報文に関しては見出し・章・節などの表し方はポイントシステムにより、章・節などの文字は用いない。
記述例 : 1, 2, 3, ………
1. 1, 1. 2, 1. 3, ………
1. 1. 1, 1. 1. 2, 1. 1. 3, ………などを用いる。
詳細は表-2 (2) 報文の構成と内容を参照する。
- 4) 速報に関してはポイントシステムによる項目分けを行わず、太文字で項目見出しを作成し、内容を段落として区別する。詳細は表-2 (2) 速報の構成と内容を参照する。
- 5) 原稿作成と投稿について。
 - ・原稿用紙は A4 判の縦の白紙を使用する。
 - ・本文は 1 ページに 1 行 40 文字、1 ページ 30 行とする。
 - ・脚注は本文の下に線を引き、分けて印字する。脚注は本文の行数には含まれない。
 - ・ページ No. を必ず各ページ下中央に挿入する。
 - ・本文と図表は別ファイルにする。
 - ・投稿は、ハードコピー 4 部を郵送する。
 - ・原稿受理が決まった最終段階時に電子媒体とハードコピー 1 部を提出する。

2. 用語・術語などの用法

- 1) 原則として、関連分野学術用語集の用語などによる。
におい・かおり関連に関しては、におい・かおり環境協会編 (環境省大気保全局大気生活環境室監修) : 最新「においの用語と解説」(1998) を参照する。
- 2) 学術用語は原則として文部科学省編の「学術用語集」に従う。前項の用語集にない用語については、JIS 用語その他の適当と思われる慣用語を用いる。

- 3) 内容表現に適切と思われる特例の用語を用いる場合は、最初に出るところでことわりを入れる。
記述例 : ニオイ (以後“におい”にこの表現を用いる)
 - 4) 漢字、かな、送りがななどに関しては、現代仮名遣い辞典を参考とする。
 - 5) 文章内に用いる技術用語、専門用語などの外国語は、原則として原綴り (できるだけ英語綴りを用いる) とする。ただし、一般化されているもの、あるいは術語となっているものはカタカナを用いる。
 - 6) 単位・量は特別の理由のない限り SI 単位を用いることが望ましい。
 - 7) 数字、数式および数式表示
 - ・数量や序数を表す数字はアラビア数字を用い、漢字と結合して名称や概数を表す場合は漢数字を用いる。
記述例 : 10m, 図-1, 表-2, 第 5 章, 三角形, 二, 三の例, 一例として
 - ・小数点や桁区切りは、0.123 や 456789 などのように書き、.123 や 456,789 のようには書かない。
 - ・数式を文中に書く場合には、原則として 1 行におさまる表記法を用い、使用する記号の説明および単位とともに明瞭に表示する。
 - ・文中とは別に式だけを書く場合は、数式エディタなどを使用してもよい。
 - ・数式表示の形式は、理解しやすい表記とする。
 - 8) 略記など
 - 化合物などの化学式や略号の表現、長い用語の略記は使用してもよい。ただし、最初に出るところで正しい日本名または原語名を示す。化合物名は原則として IUPAC に従う。におい・かおり関連の化合物名は慣用語を使用してもよい。
記述例 : メチルメルカプタン (以後 MM と略記する)
- 1) から 8) に関して、編集委員会から変更などの指示があった場合にはこれに従う。

3. 図、表および写真

- 1) 図・表・写真などは重複を避け、十分に選択の上、最小限にとどめる。
- 2) 図・表・写真は 1 枚ごとに別紙 (A4) とし、各葉ごとに著者名と図・表番号を右下のところに付ける (写真は図として扱う)。また文章原稿用紙の左の欄外に図-○、表-○と記載して、掲載箇所を指定する。文章原稿に図・表をはり付けたり、あるいは掲載箇所を示すために余白をあけたりしない。
- 3) 図・表の番号は図-1, 図-2, 表-1, 表-2 などと

記入し、図についてはその下側、表についてはその上側に、その番号および標題を必ず記入する。

- 4) 図・表には、内容を的確に表す標題を付け、かつ、はっきり見えるものを提出する。
- 5) 図・表の標題、内容、説明などは和文、英文のいずれかに統一する。
- 6) カラー写真は原則として採用しないが、特に希望する場合は、投稿の際に当編集委員会までその旨を連絡する。この場合もその実費は著者負担とする。
- 7) 写真データの解像度は300dpi以上とし、データ形式はJPEGなどとする。
- 8) 図や写真をスキャンする場合、カラー原稿のスキャンモードはRGB (24bits)、解像度300dpi、JPEG形式などとする。モノクロ原稿の場合、スキャンモードをGrayscale (8bits)、解像度300dpi、JPEG形式などとする。
- 9) 図やグラフなどのバックには色や灰色を使わず白とする。

4. その他の留意事項

- 1) 参考文献は出所およびその部分を明確にし、本文中右肩に片カッコ付で表示する。また、一般に公表されていない文献資料、パンフレットなどからの引用はできるだけ避ける。
- 2) 私信および投稿中の物は、入手先、投稿先などを明示し、そのコピーを添付する。

5. 参考文献の記載例

原則として日本語文献は全角文字を用い、英語文献は半角文字を用いる。

英語文献の著者名は、“and”などの接続詞を用いてもよい。

記述例：Lee, M.H., Barness, D.P. and Hardy, N.W.

[雑誌]

・著者名、(連名者も記載)：表題、雑誌名(略号可)、巻、開始頁-終了頁、(発行年)。

記述例：

日本語文献

・神田太郎、本郷次郎：においの特性、におい・かおり環境学会誌、34、35-45、(2003)。

外国語文献

・Dravnieks, A. and Jarke, F.: Characteristics of odor exhausted from many plants, *J. Air Pollut. Control Assoc.*, 30, 1284-1289, (1980)。

[単行本]

・著者：(発行年)、表題、“書名”、p〇-〇、出版社。

記述例：

日本語文献

・文京太郎：(2003)、住空間における各種脱臭法の評価、“脱臭法”、p12-56、科学出版。

外国語文献

・Robert West：(2000)、Deodorization methods of high strength of VOCs, in *Odor Research*, p155-186, Academic Press New York."

[単行本分担執筆で編集者、監修者がいる場合]

・著者(編集者または監修者)：(発行年)、表題、“書名”、p〇-〇、出版社。

記述例：

日本語文献

・香料三郎(香花子編集(または監修))：(2001)、匂い香りが生体に及ぼす効果、“香りの評価”、p455-480、東京出版。

外国語文献

・Hanako Abe (ed. Kenji Inoue)：(2003)、The mechanism of olfactory fatigue, in *Evaluation and Measurement of Odor*, p467-492, Academic Press New York

※[単行本]および[単行本分担執筆で編集者、監修者がいる場合]の外国語文献著者名表記について、ファーストネームはイニシャル表記でも可。

[辞典、便覧、白書など]

・編集者または発行所名：(発行年)、“書名”、p〇-〇、編集者と異なる場合は出版社。

記述例：

・におい・かおり環境協会編(環境省大気保全局大気生活環境室監修)：(1998)、“最新「においの用語と解説」”、p 5-6。

・中村運訳・編：(1992)、“分子生物学辞典”、p 476、化学同人。

・日本化学会編：(2003)、“応用化学編(Ⅱ)、化学便覧第6版”、p 598、丸善。

[その他]

・学会発表、社内報告、年報、紀要など

記述例：

日本語文献

・東神田 研：各種脱臭法の比較、第13回におい・かおり環境学会講演要旨集、25-26、(2001)。社内報告、年報、紀要などは学会発表記載例に準ずる。

外国語文献

・Dunn, D., Smith, M. and Brenner, M.: Deodorization mechanism of VOCs by biofilter, *Proceedings in the 50th International Sympo-*

sium of deodorization, June 6-10, Ottawa, 11-12, (2003).

6. 著作権

- 1) 著者は、掲載された論文の著作権の使用を本協会に委託する。

ただし、本協会は、第三者からの文献などの複写・引用・転載に関する許諾の要請がある場合は、

原著者に連絡し許諾の確認を行う。

- 2) 著者が自分の論文を自らの用途のために使用することについての制限はない。
- 3) 編集出版権は、本協会に帰属する。
- 4) 掲載された論文は、オンラインジャーナルとして独立行政法人科学技術振興機構が運営する「J-STAGE」に đăng載される。

にょい・かおり環境学会誌」投稿力ード (受付番号※¹⁾)

| | | | | | |
|--|--|--------------------|------------------|--------------|---------------|
| 掲載希望欄 (該当を○で囲む) | 総論・論説・研究論文・技術論文・技術速報・技術速報・調査 報告訳文・解説・講座・技術資料・その他 () | | | 発送日 年 月 日 | 受付日※ 年 月 日 |
| 題名 | 和文 | | | | |
| | 英文 | | | | |
| キーワード | 日本語 | | | | |
| | 英語 | | | | |
| 著者名 ²⁾ (ローマ字を下段に記載) | 会員番号 | 所属機関名 (下段に英文表記を記載) | 所在地 (下段に英文表記も記載) | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| 責任著者 | 連絡先 | | | | |
| 人または動物を対象とした実験の有無 (該当を○で囲む) 有・無 実験期間 年 月 日 ~ 年 月 日 | | | | | |
| 原稿枚数 | 本文: 枚、要旨 (英文): 枚、表: 枚、図: 枚、写真: 枚、合計: 枚 | | | | |
| 別刷 ³⁾ | 希望部数 (該当を○で囲む) 50部 100部 150部 200部 200部以上 () 部希望、 表紙の有無 (該当を○で囲む) 無し・有り | | | | |

1) ※の欄は編集部で記入します。2) 著者が4名以上の時はコピーして下さい。3) 表紙付きや希望部数が200部を超える場合は別途見積りします。